

<報告書本文>

城南緩和ケア研究会 市民の集い

「つながる・支える・やわらげる 『在宅医療』知っていますか？家で最期まで療養したい人に」

日程 2016年7月30日（土）14時から17時

場所 NTT 東日本関東病院 カンファレンスルーム

参加人数 50名

内容

第一部；主題講演

「皆で『支える』『つながる』『やわらげる』家で医療を使うという選択肢」

演者：東邦大学医療センター大森病院 緩和ケアセンター大津秀一先生

第二部：城南地域における在宅緩和ケアの紹介とグループディスカッション

主題講演では講演要旨にあるように、はじめに在宅緩和ケアについて詳しく述べていただき、併せて死についての話題を家族間で共有する必要性について述べていただきました。これまでの看取りのご経験を通して大切だと感じて来られた多くの患者さんご家族の話をご紹介いただき、家族と看取りについての話し合いを行うことの意味やそのことがもたらす家族の絆などをお話しいただきました。参加者は大きく頷きながら自身に置き換えて話を聞くことができていたのではないかと思います。

第二部では、はじめに城南地域で実際に在宅緩和ケアを受けた患者さんのご様子を撮影したビデオを供覧し、具体的な在宅緩和ケアについての説明を行いました。撮影にご協力いただいた患者さんのご遺族もご参加くださり、在宅緩和ケアを受けられた感想をお話いただきました。

その後、小グループに分かれてのディスカッションを行いました。

最後に全体でグループディスカッションの内容を共有しました。ビデオでは在宅緩和ケアについての説明部分もあり、第一部の講演内容からさらに在宅緩和ケアについての理解を深めることができる内容でした。

尚、本市民の集いは、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成により開催されました。

感想

事前の広報を城南緩和ケア研究会の世話人がそれぞれに働いている施設にポスターを貼るなど工夫して行いましたが、メディアを利用することが十分にできず、最終的な参加者が予定人数に満たなかったことが残念でした。今後はインターネットメディアを上手に使うなどの工夫が必要かと思われました。

また、映像を作成する過程で、城南緩和ケア研究会メンバーで、効果的な場面や在宅医療を支えるリソースの見せ方を話し合い、地域のネットワークや、さらなるこの地域でのリソース活用への思いを深めることができたと思われます。

映像は、あるご家族の在宅で最期を迎えるといった決断から、そのための地域医療や緩和ケア病棟との繋がり、日々の過ごし方などが紹介され、講演だけでなくよりリアルに在宅医療イメージし、参加者の意見を交換することができたと思います。また、映像に協力いただき遺族となられたご家族もご参加下さり、在宅にしてよかったこと、家族として充実した時間であったこととお話しいただきました。参加者の多くは終末期になったとき、自分が在宅を選ぶには今は何ができるのかを考え、足りない情報を補うようにグループワークを進めることができていた様子でした。

講演要旨

在宅でも適切な緩和ケアを受けることで最後まで穏やかな生活を起こることができるという主旨で講演を行った。

在宅で終末期を過ごすことに関しては未だ一般の不安が大きい。例えば、家族負担や急変時の対応等である。それに関しては、適切なサービスを導入し、むしろ24時間対応可能な在宅医を病院と並行して導入することは安心につながることをお伝えした。

また医行為が病院と比較して充実していないのではないかと心配される方もいる。しかし必ずしもそのようなことはなく、終末期においてはそれが予後を規定することはなく、一方で在宅の持つ環境は症状緩和に関して重要な利点を有しており、総合的には勝る場合も十分考えられることなどを説明した。

具体的な在宅機関とのつながり方、費用等についても概説した。

最後に、日本人は一般に各人は死についてよく考えている一方であまり家族間で共有していないという特徴があることをデータを元に述べた。有事の際に穏やかな時間を過ごすためには、良質かつ潤沢な関係者間のコミュニケーションが必要不可欠である。各人が、地域の在宅資源についてより理解を深めるとともに、大切な人と十分今後のことを話し合っておくこと、その重要性を述べて講演のまとめとした。

城南緩和ケア研究会 市民の集い

「つながる・支える・やわらげる 『在宅医療』 知っていますか？家で最期まで療養したい人に」 プログラム

開会のご挨拶

昭和大学保健医療学部教授 梅田恵先生

第一部 主題講演

「皆で『支える』『つながる』『やわらげる』家で医療を使うという選択肢」

座長：東埼玉病院 外山哲也先生

演者：東邦大学医療センター大森病院 緩和ケアセンター大津秀一先生

<休憩>

第二部 城南地域における在宅緩和ケアの紹介とグループディスカッション

ビデオ上映と説明、ご遺族の紹介：鈴木内科医院 鈴木央先生

グループディスカッションとまとめ

座長：昭和大学保健医療学部教授 梅田恵先生

NTT 東日本関東病院 入山哲次先生

閉会のご挨拶

鈴木内科医院 鈴木央先生

城南緩和ケア研究会主催 「市民の集い」のお知らせ

つながる・支える・やわらげる

「在宅医療」知っていますか？ 最期まで家で療養したい人に

近年は、がんになっても自宅で過ごされる方も増えてきています。在宅での緩和ケア、その実際はどのようなものなのでしょう？在宅医としての経験を持ち、大学病院で緩和ケアの仕事に携わる大津先生の講演と、実際に在宅で緩和ケアを受けたあるご家族の記録を見ながら、具体的な支援のありかたを皆さまと考えてみたいと思います。

日時：平成28年7月30日 午後2時より午後5時

場所：NTT東日本関東病院 4階 カンファレンスルーム

参加費：無料 会場収容人数約100名

プログラム

挨拶 梅田恵 昭和大学保健医療学部教授

講演 つながる・支える・やわらげる

- 家で医療を使うという選択肢 -

大津秀一先生 東邦大学医療センター大森病院緩和ケアセンター

ビデオ上映「在宅緩和ケア」知ってますか？

ディスカッション

まとめ 鈴木央 鈴木内科医院 (城南緩和ケア研究会代表世話人)

連絡先：03-3772-1853 (鈴木内科医院)

本会は公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成を受けて開催されます



会場案内

NTT東日本関東病院

〒141-8625 品川区東五反田5-9-22

関東病院 休日・夜間出入り口より入り
エレベーターで4階へ向かってください
以降、案内版があります。

